
藤井洋子教授 略歴

学歴

- 1973年3月 日本女子大学附属高等学校卒業
1973年4月 日本女子大学文学部英文学科入学 1977年3月同卒業
1979年4月 日本女子大学大学院文学研究科英文学専攻博士課程前期
1981年3月同修了
1986年9月 アメリカ合衆国オレゴン大学言語学科修士課程 1989年3月同修了

取得学位

- 1981年3月 日本女子大学大学院文学研究科英文学専攻 修士
1989年3月 アメリカ合衆国オレゴン大学言語学科 修士

職歴

- 1977年4月～1979年3月 三井物産株式会社
1980年4月～1982年3月 筑波大学附属駒場中学校非常勤講師
1981年4月～1982年3月 日本女子大学附属高等学校非常勤講師
1982年4月～1986年3月 筑波大学附属駒場高等学校非常勤講師
1982年4月～1986年3月 日本女子大学文学部英文学科助手
1985年4月～1986年3月 相模女子大学学芸学部英語科非常勤講師
1987年9月～1989年3月 オレゴン大学東アジア言語・文学学科教育助手
(日本語担当)
1989年4月～1991年3月 放送大学教養学部専任講師
1989年4月～1992年3月 日本女子大学文学部英文学科非常勤講師
1991年4月～2001年3月 放送大学教養学部助教授
1994年4月～1995年3月 日本女子大学文学部英文学科非常勤講師
1995年4月～1996年3月 神奈川大学外国語学部英語英文学科非常勤講師
1997年4月～2001年3月 日本女子大学文学部英文学科非常勤講師
2001年4月～2005年3月 日本女子大学文学部英文学科助教授
2001年4月～2005年3月 放送大学教養学部客員助教授
2005年4月～2023年3月 日本女子大学文学部英文学科教授
2005年4月～2006年3月 放送大学教養学部客員教授
2005年4月～2006年3月 ロンドン大学アジア・アフリカ研究所客員研究員
-

賞

1986年	ロータリー国際奨学生(至1987年6月)
1987年	P.E.O. International Peace Scholarship Award(至1989年)
2020年	社会言語科学会徳川宗賢賞優秀賞

所属学会

1981年～2020年	大学英語教育学会
1982年～現在	日本英語学会
1989年～現在	International Pragmatics Association
1989年～現在	日本言語学会
1989年～現在	「言語と人間」研究会
2001年～現在	日本認知言語学会
2001年～現在	日本語用論学会
2007年～現在	社会言語科学会
2017年～現在	共創学会
2017年～現在	日本エドワード・サピア協会

学会等における活動

(1) 学会

日本英語学会	評議員(2008年度～2020年度) 大会運営委員(2009年度～2011年度)
「言語と人間」研究会	役員(2002年度～2017年度) 副会長(2004年度～2016年度) 名誉会員(2017年度～現在)
社会言語科学会	理事(2011年度～2014年度、2017年度～2020年度) 事業委員会委員(2011年度～2012年度) 研究大会発表賞選考委員会委員長(2013年度～2014年度) 徳川宗賢賞選考委員会委員(2017年度～2018年度) 企画委員会委員(2017年度～2018年度) 企画委員会委員長(2019年度～2020年度)
共創学会	理事(2017年度～2020年度)

(2) 編集委員

<i>Pragmatics</i>	Associate Editor(2013年～現在)
日本言語学会	『言語研究』編集委員(2018年度～2020年度)

(3) 査読委員

Cultural, Psychological and Typological Issues in Cognitive Linguistics., ed. by Hiraga, Masako K., Chris Shinha and Sherman Wilcox (John Benjamins). (1995 年～1996 年)

Journal of Pragmatics (1997 年～現在)

『ことばと人間』(「言語と人間」研究会機関誌) (1999 年～2016 年)

Pragmatics (2005 年～2012 年)

日本英語学会 外部査読委員 (2009 年～現在)

Pragmatics and Society (2013 年 10 月～現在)

日本語用論学会 外部査読委員 (2016 年度～現在)

Pasaa Paritat Journal (Chulalongkorn University, Thailand) (2016 年度～現在)

Applied Linguistics (2018 年)

共創学会 (2019 年)

言語科学会 (2020 年)

科学研究費補助金プロジェクト

2006 年度～2007 年度 『文化・インターアクション・言語に関する実証的「解放的」理論の展開』(基盤研究 B 課題番号: 18320069 研究代表者 井出祥子) 研究分担者

2008 年度～2010 年度 『母語話者視点に基づく解放的語用論の展開: 諸言語の談話データの分析を通じて』(基盤研究 B 課題番号: 20320064) 研究代表者

2011 年度～2013 年度 『社会・文化的場の共創と言語使用: 母語話者視点による語用論理論の構築』(基盤研究 B 課題番号: 23320090) 研究代表者

2015 年度～2017 年度 『「場」の語用論モデル構築: 母語話者視点による通言語の実態分析に基づいて』(基盤研究 B 課題番号: 15H03208) 研究代表者

2021 年度～2024 年度 『インターアクションにおけるモダリティの多言語間比較——「場の語用論」の構築に向けて』(基盤研究 B 課題番号: 21H00527) 研究代表者

藤井洋子教授 研究業績

著書

- 1990年3月 分担『英語 I ('90) — Rebuilding the Foundation of Your English —』比嘉正範・平賀正子編 放送大学教育振興会、第5、6、9、13、14章
- 1994年3月 共著『英語 III ('94) — An Introduction to Living English —』(共著: 平賀正子) 放送大学教育振興会、第2、4、6、8、10、12、14章
- 1994年9月 分担“Teaching English from Australia to Japan via Interactive Video Conference Systems” (Co-author: Masako Hiraga) Heidrun Jung and Robert Vanderplank eds., Barriers and Bridges: Media Technology in Language Teaching. Frankfurt am Main: Peter Lang, 69–80.
- 1995年11月 分担「日本語の語順の逆転について——会話中の情報の流れを中心に——」高見健一編『日英語の右方移動構文——その構造と機能——』ひつじ書房、167–198.
- 1996年3月 共著『英語 I ('96) —— 英語はなぜ難しいか ——』(共著: 平賀正子) 放送大学教育振興会、第3、5、6、9、10、13、14章
- 1997年3月 共著『英語 III ('97) —An Introduction to Living English—』(共著: 平賀正子) 放送大学教育振興会、まえがき、第2、4、6、8、10、12、14章.
- 1999年12月 分担“The Story of ‘Break’: Cognitive Categories of Objects and the System of Verbs” Hiraga, Masako, K., Chris Sinha and Sherman Wilcox eds., Cultural, Psychological and Typological Issues in Cognitive Linguistics, Amsterdam: John Benjamins, 313–332.
- 2001年3月 共著『英語 I ('01) —Grammar in Action—』(共著: 平賀正子) 放送大学教育振興会、第1、3、5、7、9、11、13、15章
- 2005年6月 分担「談話分析」中島平三編『現代言語の事典』、朝倉書店、175–191.
- 2005年10月 分担「*骨をこわす vs. break the bone 認知カテゴリーと文法項目のタイポロジー」井出祥子、平賀正子編『社会言語科学講座 第1巻 異文化とコミュニケーション』、ひつじ書房、156–169.
- 2014年3月 共編『解放的語用論への挑戦——文化・インターアクション・言語』(共編: 井出祥子) くろしお出版 全193頁

- 2014年3月 共著「課題達成過程における相互行為の言語文化比較——日本語・韓国語・英語の比較分析——」（共著：金明姫）『解放的語用論への挑戦——文化・インターアクション・言語』井出祥子・藤井洋子編、くろしお出版、57-90.
- 2016年3月 共編 井出祥子・藤井洋子監修 シリーズ 文化と言語使用 第1巻『コミュニケーションのダイナミズム』（共編：高梨博子）ひつじ書房 全177頁
- 2016年3月 分担「日本人のコミュニケーションにおける自己観と「場」——課題達成談話と人称詞転用の分析より——」井出祥子・藤井洋子監修、シリーズ 文化と言語使用 第1巻藤井洋子・高梨博子編『コミュニケーションのダイナミズム』ひつじ書房、1-37.
- 2017年3月 分担「『うるさい』と‘Be quiet!’ どう違う？——場中心と人間中心——」高見健一・行田勇・大野英樹編『〈不思議〉に満ちたことばの世界』（中島平三先生退職記念企画）、開拓社、125-129.
- 2020年11月 共編 井出祥子・藤井洋子監修 シリーズ 文化と言語使用 第2巻『場とことばの諸相』（共編：井出祥子）ひつじ書房、全291頁
- 2020年11月 分担「日本語の『場』志向性と述語主義を考える——英語との比較から——」井出祥子・藤井洋子監修・編 シリーズ 文化と言語使用 第2巻『場とことばの諸相』ひつじ書房、61-103.
- 2022年1月 監修 井出祥子・藤井洋子監修 シリーズ 文化と言語使用 第3巻 岡智之・井出祥子・大塚正之・櫻井千佳子編『場と言語・コミュニケーション』、ひつじ書房、全265頁

論文

- 1981年9月 「『共感』と『ダイクシス』——ComeとGoに焦点を当てて——」『大学英语教育学会紀要』第12号、47-62.
- 1983年3月 「日本語における Freeze の研究」『日本女子大学文学部紀要』32: 21-35.
- 1984年4月 “Empathy Hierarchy for Referential Choice in Japanese Discourse” 『英米文学研究』19日本女子大学英语英文学会 131-142.
- 1986年 “A Comparative Study of ‘Freeze’ in Japanese and English” Cross-Cultural Communication: East and West, Vol. 1, 335-355.
- 1991年3月 「日本語文における語順の逆転——談話語用論的視点からの分析——」『言語研究』99日本言語学会 58-81.
- 1991年3月 「日本語文における語順の逆転——談話語用論的視点からの分析

-
- 」(概要)『ディスコースプロセス研究』ディスコースプロセス研究会第2巻第4号, 104-109.
- 1991年9月 “Experimental International Language Teaching between Japan and Australia Using 64/128 kbs Compressed Video via ISDN” (共著: 若松茂、Geoff Arger、平賀正子)『放送教育開発センター研究紀要』第6号, 149-156.
- 1991年9月 「日本語の談話における副詞節と主節の節順と機能」『ディスコースプロセス研究』ディスコースプロセス研究会第3巻第1号, 16-22.
- 1991年10月 “Categories of Objects and the Verb ‘BREAK’— Conceptual Systems in Languages with and without Classifiers —” P.G. Fendos, Jr. (ed.), *Cross-Cultural Communication: East and West*, Vol. 3, 265-285.
- 1992年4月 “The Order and Functions of Adverbial Clauses in Japanese Spoken Discourse” MLS (目白言語学会) 編『ことばのモザイク——奥田夏子教授古希記念論文集——』109-123.
- 1993年1月 “Utilization of Teleconference System for Teaching English from Australia to Japan” (Co-author: Masako Hiraga) *The Proceedings of Pacific Telecommunications Council*, 24.
- 1993年3月 “The Pragmatics of Main Clause Preposing in Japanese Spoken Discourse”『放送大学研究年報』第10号, 103-122.
- 1994年7月 「機能的アプローチによる談話研究の記述と方法」社会言語学研究会予稿集, 4-17.
- 1996年3月 “Cognitive Structures of the Verbs of ‘Breaking’ and the Classifiers in Japanese”『放送大学研究年報』第14号, 111-135.
- 1996年12月 “Cross-Cultural Pragmatics in Western Academic Discursive Practice” (Co-authors: Joan M. Turner, Masako Hiraga) *Semiotics around the World; Synthesis in Diversity. Proceedings of the 5th Congress of the International Association for Semiotic Studies*, 263-266.
- 1998年3月 “Thematic Structure and Subject Assignment in Japanese Narrative Discourse” (共著: 金明姫)『放送大学研究年報』第16号, 195-209.
- 1998年9月 「日本人のコミュニケーション行動と英語教育——比較文化語用論からの展望——」(共著: 平賀正子)『複雑化社会のコミュニ
-

- ケーション』日本語学9月臨時増刊号 明治書院, 88–99.
- 2000年12月 “A Comparative Study of Subject Assignment and Case Marking between Korean and Japanese” (Co-author: Myung-Hee Kim) Proceedings of the 12th World Congress of Applied Linguistics AILA '99 Tokyo, CD-ROM.
- 2003年8月 “L2 Pragmatics in Academic Discourse: A Case Study of Tutorial in Britain” (Co-authors: Masako K. Hiraga, Joan M. Turner) Intercultural Communication Studies — A Festschrift for Masanori Higa —, Vol. XII: 3, 19–36.
- 2005年3月 “How Japanese and American Pairs Co-construct Stories: An Overview of Two Different Types of Collaboration” 『英米文学研究』40: 69–84.
- 2006年3月 “What Do They Verbalize and How? — The Process of Co-constructing a Story by Japanese and American Pairs” 『アジアの文化・インタ—アクション・言語の相互関係に関する実証的・理論的研究』平成15年度～17年度科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書, 114–127.
- 2006年7月 “What Do You Want to State First?: Pragmatic Message Management in Japanese Word Order” (Invited) Proceedings of the Seoul International Conference on Linguistics 2006, 450–464.
- 2007年11月 「共同作業における合意形成——日本語・英語・韓国語における『場』とことば」(共著: 金明姫) 日本言語学会第135回大会予稿集, 324–329.
- 2008年3月 “What Causes Differences in the Process of Mutual Consent?: A Comparison of Story Co-construction by Japanese and American Pairs” 『文化・インターアクション・言語に関する実証的・「解放的」理論の展開』平成18年度～19年度科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書, 104–120.
- 2008年9月 “A Study of the Situation of Self in the Interaction of Conducting of Problem-solving Tasks: A Difference between Japanese and American Pairs” 日本認知言語学会第9回大会予稿集, 37–40.
- 2009年3月 “Story Co-construction and Establishment of Mutual Consent: Convergences and Divergences between English, Japanese and Korean” (Co-author: Myung-Hee Kim) Congress Book of the 18th International Congress of Linguists, 3572–3586.

-
- 2009年6月 “A Study of the Situation of Self in the Interaction of Conducting of Problem-solving Tasks: A Difference between Japanese and American Pairs” 『日本認知言語学会論文集』第9巻, 608–611.
- 2011年3月 「日本語の親族呼称・人称詞に見る自己と他者の位置づけ——相互行為の『場』における文化的自己観の考察——」 『日本女子大学文学部紀要』60: 73–86.
- 2012年4月 “Differences of Situating Self in the Place/*ba* of Interaction between the Japanese and American English Speakers” *Journal of Pragmatics*, Vol. 44, Issue 5, 636–662.
- 2013年3月 “Social Indexicality of the ‘Zero’ Form of Address Terms in Japanese: The Interpretation from the *Amae* Concept on the Basis of ‘Inseparable Self and the Other’” 『日本女子大学文学部紀要』62: 23–34.
- 2016年9月 「異文化理解のための解放的語用論」第37回研究大会シンポジウム報告(共同発表者: 植野貴志子・堀江薫・片岡邦好・片桐恭弘) 『社会言語科学』第19巻第1号, 224–230.
- 2017年3月 「主体的・対話的で深い学びの実践としての英語科教育法」 『教化教育法に関する研究』日本女子大学編, Vol. 1, 67–72.
- 2017年9月 「日英語比較による英語の指導——ことばへの気づきを喚起する英語教育を目指して——」 『教化教育法に関する研究』日本女子大学編, Vol. 3, 27–37.
- 2018年9月 「『個を基体とする言語行動』と『場を基体とする言語行動』——英語・中国語・日本語・韓国語・タイ語の比較より——」 『社会言語科学』第21巻第1号, 129–145.
- 2019年5月 “Communicative Interaction in Terms of *Ba* Theory: Towards an Innovative Approach to Language Practice” (Co-authors: Hanks, William F, Sachiko Ide, Yasuhiro Katagiri, Scott Saft and Kishiko Ueno) *Journal of Pragmatics*, Vol. 145, 63–71.

書評

- 2001年3月 “Betty J. Birner & Gregory Ward: Information Status and Noncanonical Word Order in English (Studies in Language Companion Series)” *Studies in English Literature*, English Number 42: 93–100.
- 2016年3月 『やりとりの言語学——関係性思考がつかなく記号・認知・文化』
-

N.J. エンフィールド著 井出祥子監修 横森大輔・梶丸岳・木本幸憲・遠藤智子訳『英語教育』3月号、大修館書店、94.

その他

- 1987年5月 事典“His temperature {went up/ came down} today.”『例解現代英文法事典』(安井稔編)大修館書店、183-185.
- 1999年1月 辞典「Functionalism」他13項目『英語学用語辞典』(荒木一雄編)三省堂
- 2011年6月 『母語話者視点』に基づく解放的語用論の展開：諸言語の談話データの分析を通じて(共同研究者：井出祥子・片桐恭弘・植野貴志子)平成20年度～22年度科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書
- 2021年9月17日 新聞記事「言語学の観点から『親族の関係性、社会に拡張』」秋田さきがけ新聞「声の十字路」

口頭発表

- 1985年8月 “A Comparative Study of ‘Freeze’ in Japanese and English” The 1st International Conference on Cross-Cultural Communication: East and West. Seoul, Korea.
- 1989年10月 「日本語における文要素の後置について」第99回日本言語学会年次大会
- 1990年6月 「動詞‘BREAK’と概念体系(Conceptual Systems)——分類辞を持つ言語と持たない言語——」第100回日本言語学会年次大会
- 1991年4月 “Categories of Objects and the Verb ‘BREAK’—Conceptual Systems in Languages with and without Classifiers—” The 3rd International Conference on Cross-Cultural Communication: East and West. Tainan, Taiwan.
- 1992年10月 「日豪間におけるテレビ会議システムを利用した英語教育——実験報告——」(共同発表者：平賀正子)第8回日本教育工学会年次大会
- 1993年1月 “Utilization of Interactive Video Conference Systems for Teaching English from Australia to Japan” (Co-author: Masako Hiraga) Pacific Telecommunications Council 15th Annual Conference. Hawaii, U.S.A.
- 1993年7月 “The Pragmatics of VP and Main Clause Preposing in Japanese

-
- Spoken Discourse” (Poster Session) The 4th International Pragmatics Conference. Shoin Women’s University, Japan.
- 1993年8月 “Teaching English from Australia to Japan via Interactive Video Conference Systems” (Co-author: Masako Hiraga) The 10th Conference of the Association Internationale de Linguistique Appliquée (AILA). Amsterdam, The Netherlands.
- 1994年6月 “Cross-cultural Pragmatics in Western Academic Discursive Practice” (Co-authors: Joan M. Turner, Masako Hiraga) The 5th Congress of the International Association for Semiotic Studies. University of California, Berkeley, U.S.A.
- 1994年7月 「機能的アプローチによる談話研究の記述と方法」第1回社会言語学研究会
- 1995年7月 “The Story of ‘Break’: Cognitive Categories of Objects and the System of Verbs” The 4th International Cognitive Linguistics Conferences. University of New Mexico, U.S.A.
- 1999年8月 “A Comparative Study of Subject Assignment and Case Marking between Korean and Japanese” (Co-presenter: Kim Myung Hee) The 12th Conference of the Association Internationale de Linguistique Appliquée (AILA). Waseda University, Japan.
- 1999年8月 “Pragmatic Meanings of Reversed Word Order in Japanese Conversation” The 12th Conference of the Association Internationale de Linguistique Appliquée (AILA). Waseda University, Japan.
- 1999年12月 「実験を通じた談話分析の方法と実際——話し手による「は」と「が」の選択を知るために——」シンポジウム『ディスコース研究の可能性』横浜「言語と人間」研究会25周年記念講演会
- 2001年7月 “Is Postposing Really Postposing?: Pragmatic Message Management of Preposing in Japanese Conversation” The 7th International Cognitive Linguistics Conferences. University of California, Santa Barbara, U.S.A.
- 2005年7月 “What Do They Verbalize and How? — The Process of Co-constructing a Story by Japanese and American Pairs —” The 9th International Pragmatics Conference. Panel: Exploring the Relationship among Culture, Interaction and Language: Cross-Linguistic Perspectives. Riva del Garda, Italy.
- 2006年2月 “The Story of ‘Break’: Cognitive Categories of Objects, the System
-

-
- of Verbs, and Typological Implications” Max Plank Institute for Psycholinguistics. Nijmegen, The Netherlands.
- 2006年2月 “The Story of ‘Break’: Cognitive Categories of Objects, the System of Verbs, and Typological Implications” Departmental Seminar, Department of Linguistics, SOAS, The University of London, U.K.
- 2006年5月 “Categorization of Objects and the Verbs ‘Break’ in Japanese and English and the Typological Implications” 「言語と人間」研究会
- 2006年7月 “What Do You Want to State First? : Pragmatic Message Management in Japanese Word Order” (Invited) Semantics and Pragmatics Workshop 1 The Seoul International Conference on Linguistics 2006. Seoul, Korea.
- 2007年3月 “What Causes Differences in the Processes of Mutual Consent?: A Comparison of Story Co-construction by Japanese and American Pairs” The 2nd Tokyo International Workshop on Emancipatory Pragmatics. Supported by JSPS Grants-in-Aid for Scientific Research (B). Japan Women’s University, Japan.
- 2007年7月 “What Causes Differences in the Processes of Mutual Consent?: A Comparison of Story Co-construction by Japanese, Korean, and American Pairs” (Co-presenter: Kim Myung Hee) The 10th International Pragmatics Conference. Panel: Toward an Emancipatory Pragmatics: Culture, Language, and Interaction in Cross-linguistic Perspective. Göteborg, Sweden.
- 2007年9月 “What Causes Differences in the Processes of Mutual Consent?: A Comparison of Story Co-construction by Japanese and American Pairs” International Symposium on Discourse, Communication and Modernity. Chulalongkorn University, Thailand.
- 2007年11月 「共同作業における合意形成——日本語・英語・韓国語における『場』とことば」(共同発表者: 金 明姫) ワークショップ『『解放的』語用論の展開——母語話者視点からのチャレンジ』日本言語学会第135回大会
- 2008年7月 “Story Co-construction and Establishment of Mutual Consent: Convergences and Divergences between English, Japanese and Korean” (Co-presenter: Kim Myung Hee) The 18th International Congress of Linguists. Korea University, Korea.
-

- 2008年9月 “A Study of the Situation of Self in the Interaction of Conducting of Problem-solving Tasks: A Difference between Japanese and American Pairs” ワークショップ “Situating Self, Expressing Emotions, and Quoting Thought: What Narrative and Face-to-face Conversational Data Reveal about Cognition, Culture, and Language” 日本認知言語学会第9回大会
- 2009年3月 “Differences of Situating Self in the Place/*ba* of Interaction for Conducting a Problem-solving Task by Japanese and American Participants” The 3rd Tokyo International Workshop on Emancipatory Pragmatics. Supported by JSPS Grants-in-Aid for Scientific Research (B). Japan Women’s University, Japan.
- 2009年7月 “A Cross-linguistic Study of Negotiating Interaction: A Comparison of Story Co-construction by Korean, Japanese, and American Pairs” (Co-presenter: Kim Myung Hee) The 11th International Pragmatics Conference. Panel: Emancipatory Pragmatics: The Search for Cultural Parameters in Interactional Discourse. Melbourne, Australia.
- 2009年11月 「日本語の人称詞：自称と対称の融合——自己と他者——西洋語との対比」日本女子大学学術交流研究シンポジウム『ことばと文化：役割語と人称詞をめぐって—Person Identity and Reference in Interaction: Linguistic, Cultural and Social Perspective』日本女子大学
- 2010年9月 “Cultural Values and Interrelationship of Self and Other in Japanese Language Practices” Sociolinguistic Symposium 18. Panel: Cultural Values and Language Practice: In Search of an Enriched Pragmatic Theory. University of Southampton, U.K.
- 2010年9月 “Addressing the Self and the Other in Japanese: An Interpretation in terms of the Pragmatics of ‘*Ba*’” Informal Workshop on Comparative Pragmatics sponsored by Max Planck Institute and CLS Radboud University. Nijmegen, The Netherland.
- 2011年3月 “Pragmatics of *Ba* in Japanese” The 4th Tokyo International Workshop on Emancipatory Pragmatics. Supported by JSPS Grants-in-Aid for Scientific Research (B). Kyoritsu Women’s University, Japan.
- 2011年7月 “Interchangeability of First and Second Person Pronouns in Japa-
-

- nese — An Interpretation in terms of the Theory of ‘*Ba*’ —” The 12th International Pragmatics Conference. Panel: Emancipatory Pragmatics: Cultural and Interactional Context Revisited. University of Manchester, U.K.
- 2011年7月 “Referential Shifting between the First and Second Person Pronouns in Japanese” The 20th International Conference on Historical Linguistics. National Museum of Ethnology, Japan.
- 2011年10月 「課題達成のための言語コミュニケーションに観られる自己と他者—日英語比較研究—」日本女子大学学術交流シンポジウム『コミュニケーションのダイナミズムと社会形成—自然発話データから—』日本女子大学
- 2011年12月 “Differences of Situating Self in the Field/*Ba* of Interaction between the Japanese and American English Speakers” The 1st International Workshop on the Linguistics of *BA*. Waseda University, Japan.
- 2012年6月 “Independent Collaboration to Establish Mutual Consent between American English Speakers — An Analysis of the Interaction of a Problem-solving Task —” The 1st World Congress of Scholars of English Linguistics. Hanyang University, Korea.
- 2013年3月 “Differences of Cultural Practices in Japanese and American English Interactional Styles” Mister O Corpus Closed International Workshop. Supported by JSPS Grants-in-Aid for Scientific Research (B). Japan Women’s University, Japan.
- 2013年7月 「合意形成過程における相互行為の言語文化比較——日本語とアメリカ英語の比較分析——」第7回話しことばの言語学ワークショップ 慶應義塾大学
- 2013年9月 “Social Indexicality of the ‘Zero’ Form of Address Terms in Japanese: The Interpretation from the *Amae* Concept on the Basis of ‘Inseparable Self and the Other’” The 13th International Pragmatics Conference. Panel: Emancipatory Pragmatics: Exploring Modalities of Co-participation and Culture in Social Interaction. New Delhi, India.
- 2014年6月 “The Ideology of Language Practice in Interaction in American English and Japanese: Ways of Disagreeing” Sociolinguistics Symposium 20. Colloquium: Culture, Ideologies and Discourse

-
- through Indigenous Lenses. Jyvaskyla, Finland.
- 2014年11月 「合意形成談話における相互行為の言語文化比較：日本語・韓国語・英語の比較分析」第32回日本英語学会（招待）
- 2015年3月 「日本語の『語順』再考——場から生まれることばの順序——」日本女子大学学術交流シンポジウム『やりとりの言語学——場から生まれることば』日本女子大学
- 2015年7月 “*Ba*-Oriented Culture and Predicate-Oriented Language” The 2nd International Workshop on the Linguistics of *BA*. Future University Hakodate, Japan.
- 2015年7月 “The Theory of *Ba*: The World is Interrelated, Connected, and Continuous — *Ba*-oriented Culture and Predicate-oriented Language —” The 14th International Pragmatics Conference. Panel: Emancipatory Pragmatics: Another Look at Organization in Social Interaction. University of Antwerp, Belgium
- 2016年3月 「課題達成談話にみる自己と他者——日本語・英語・韓国語・タイ語の比較からの解放的語用論——」第37回社会言語科学会シンポジウム「異文化理解のための解放的語用論」
- 2016年3月 “A Predicate-oriented Language and Pragmatics of *Ba*” The 3rd International Workshop on Linguistics of *BA*. Waseda University, Japan.
- 2016年6月 “*Ba*-Oriented Representation of the World: from Clause Structure to Interaction” Sociolinguistics Symposium 21. Colloquium: Tracing Sociocultural and Perceptual Schemas of Non-western Interactional Practices. University of Murcia, Spain.
- 2016年11月 “Culture and Language Practices: A Cross-Linguistic Study of Task-based Interaction in Korean, Japanese, English, Thai and Chinese” (Plenary Talk) The Discourse and Cognitive Linguistics Society. Hanyang University, Korea.
- 2017年7月 “Pragmatics of *ba*: A Cross-linguistic Study of Task-based Interaction in Japanese, Korean, Thai, Chinese and American English” The 15th International Pragmatics Conference. Panel: Emancipatory Pragmatics Approaching Language and Interaction from Pragmatics of *Ba*. Belfast, U.K.
- 2017年12月 「日英語の比較から見る『場』と日本語の諸相 ワークショップ：場の語用論の試み——日本語のインテュイションに基づく
-

- 2019年3月 「日本語用論学会 第20回大会」
「日英語の比較からみた省略現象——日本語の省略再考——」科
研費成果報告公開シンポジウム「日韓両語の『省略』は何を語
るか——言語の個性と普遍性に向けて」（招待）東京大学
- 2019年6月 “Japanese as a *Ba*-oriented Language: Non-Western Perspectives
for Representation of the World” The 16th International Prag-
matics Conference. Panel: Emancipatory Pragmatics: Probing
Language Usage in Diverse Contexts. The Hong Kong Polytech-
nic University, China.
- 2019年8月 「言語によるコミュニケーション方法の異同——日本語・韓国
語・中国語・タイ語・英語の比較より——」第7回共創学研究
会／日本女子大学文学部・文学研究科 学術交流シンポジウム
「多文化共生社会を共創する」
- 2021年6月 “Rethinking Reversed Word Order in Japanese Conversation from
the Perspective of the Pragmatics of *Ba*” The 17th International
Pragmatics Conference. Panel: Emancipatory Pragmatics: Recon-
sidering Context in Terms of the Emergence and Dissolution of
Distinct Categories in Communicative Interaction. Online. Win-
terthur, Switzerland.

その他研究活動 科学研究費基盤研究(B) 補助金 **Mister O Corpus** データ
収集

- 2004年5月、6月 日本語、アメリカ英語 日本女子大学(課題番号
15320054)
- 2007年2月 韓国語 日本女子大学(課題番号18320069)
- 2012年2月 タイ語 Chulalorncorn University, Thailand(課題番号
23320090)
- 2016年3月 中国語 北京林業大学 中華民国(課題番号15H03208)
- 2022年10月、11月 ドイツ語 日本女子大学(課題番号21H00527)

講演・講義等

- 1993年3月 「日本語の会話文における語順の特徴について」朝日カルチャー
センター日本語科『日本語と日本文化』第11回講義
- 1996年11月 「日本語にない英語の特徴」あだち区民大学講座『英語はなぜ難

-
- 1998年3月 「『しいのか——社会人英語再学習のススメ——』第2回講義
「実験を通じた日本語の談話分析——談話分析の方法と実験——」横浜「言語と人間」研究会 第24回春期セミナーワークショップ 司会・講師
- 2000年2月 「文法の基本再学習——日本語・英語をくらべて——」あだち区民
大学講座『英語はなぜ難しいのか——英語再学習の第一歩——』
コーディネーター、第1回・第2回講義
- 2001年2月 「文法の基本再学習——日・英語をくらべて1」あだち区民大学
講座『生涯学習としての英語学習——英語再学習の第一歩——』
コーディネーター、第1回講義
- 2001年3月 「話しことばの特徴をさぐる」横浜「言語と人間」研究会
第27回春期セミナーワークショップ 司会・講師
- 2002年3月 「英語教育に役立つ英語学入門」横浜「言語と人間」研究会
第28回春期セミナー講義
- 2004年3月 「身近な例からみる言語学入門」横浜「言語と人間」研究会
第29回春期セミナー講義
- 2007年10月 「ことばの世界大好きです！——多言語を知る魅力——」
日本女子大学 目白祭講義実演
- 2009年8月 「ことばとしての英語——文化的視点と英語教育」教職免許更新
講習（英語科）コーディネーター及び講師
- 2009年8月 「小学校における英語指導法——理論と実践」教職免許更新講習
（英語科）コーディネーター及び講師補助
- 2011年3月 「ことばと文化・社会——ことばのおもしろさ再発見（1）——」
日本女子大学生涯学習センター講座
- 2011年7月 「コミュニケーションを彩ることばと文化——コミュニケーション
の比較文化言語学——」夢ナビライブ講義 東京ビッグサイ
ト
- 2012年3月 「ことばと文化・社会——ことばのおもしろさ再発見（1）、（2）
——」日本女子大学生涯学習センター講座
- 2012年6月、2013年10月、2015年5月 「課題達成のための言語コミュニ
ケーション——日英語比較研究——」立教大学異文化コミュニ
ケーション研究科 特別講師
- 2013年3月 「ダイクシスと社会指標性」第38回「言語と人間」研究会
春期セミナーワークショップ講師
- 2015年8月 「『古池や蛙飛び込む水の音』～現実世界をことばで区切る～」
-

- 2015年8月 日本女子大学文学部主催 高等学校教員対象研修会講義①
「グローバル化する社会におけるコミュニケーション」日本女子
大学文学部主催 高等学校教員対象研修会講義②
- 2015年8月 「ことばは文化を映し出す鏡—日本語と英語のインターアクション
を考える—」日本女子大学生涯学習センター講座
- 2016年1月 「談話分析の手法と比較言語文化研究の意義」日本通訳翻訳学会
研究会公開ワークショップ『談話分析』招待講演
- 2016年3月 『『場』の語用論—日本語に好ましい表現と「場」—』
北京林業大学日本語教室招待講演
- 2018年3月 「楽しいことばの世界—ことば・コミュニケーション・文化」
日本女子大学高等学校生徒を対象とした春期セミナー

シンポジウム・ワークショップ等 企画・運営

- 2008年5月 「社会行為としての詩的言語 /Poetics in Action」日本女子大学
文学部学術交流研究シンポジウム 企画・ディスカッサント
- 2009年11月 「ことばと文化：役割語と人称詞をめぐる」日本女子大学文学
部学術交流研究シンポジウム 企画・運営・発表
- 2011年10月 「コミュニケーションのダイナミズムと社会形成—自然発話
データから—」日本女子大学文学部学術交流研究シンポジウ
ム 企画・運営・発表
- 2012年9月 「ことばと身体性：社会における他者との関わりの構築」日本女
子大学文学部学術交流研究シンポジウム 企画・運営・進行
- 2015年3月 「やりとりの言語学—場から生まれることば」日本女子大学文
学部学術交流研究シンポジウム 運営・発表
- 2015年11月 「日英談話比較研究の英語教育への貢献」日本英語学会第33回
大会ワークショップ・ディスカッサント
- 2015年11月 The Thai-Japanese Workshop on Emancipatory Pragmatics 科学研
究費基盤研究(B)プロジェクト 企画・運営・進行、日本女子大
学
- 2016年8月 「ミスター・オー・コーパス研究 & 中国語データ分析ワーク
ショップ」2016年度日本女子大学特別重点化資金／科学研究費
基盤研究(B)共催 企画・運営
- 2017年2月 「日本女子大学英文学科における英語科教育法」日本女子大学文
学部・文学研究学術交流企画シンポジウム「日本女子大学に
おける『教科及び教科の指導法』について—教育研究業績資

-
- 源化への試み——」パネリスト
- 2017年7月 「日英語比較による語法、語用指導——ことばへの気づきを喚起する英語教育に向けて——」日本女子大学文学部・文学研究科 学術交流企画シンポジウム「日本女子大学における『教科及び教科の指導法』について——教育研究業績資源化への試み——」パネリスト
- 2019年8月 「言語によるコミュニケーション方法の異同——日本語・韓国語・中国語・タイ語・英語の比較より——」第7回共創学研究会／日本女子大学文学部・文学研究科共催 学術交流シンポジウム「多文化共生社会を共創する」企画・運営・発表 日本女子大学

番組制作

- 1989年 「英語 I ('90) —Rebuilding the Foundation of Your English」(共同制作者: 比嘉正範・平賀正子) 放送大学、ラジオ教材、45分番組7回分
- 1993年 「英語 III ('94) —An Introduction to Living English—」(共同制作者: 平賀正子) 放送大学、テレビ教材、45分番組15回分
- 1995年 「英語 I ('96) ——英語はなぜ難しいか——」(共同制作者: 平賀正子) 放送大学、ラジオ教材、45分番組15回分
- 1996年 「英語 III ('97) —An Introduction to Living English—」(共同制作者: 平賀正子) 放送大学、テレビ教材、45分番組15回分
- 2000年 「英語 I ('01) —Grammar in Action—」(共同制作者: 平賀正子) 放送大学、ラジオ教材、45分番組15回分
-